

デジタル技術

不可能を可能にする

省電力

小さなパワーで賢く動く

耐久性

いつまでも使える安心感

小型化

小さく、薄く、軽く

使いやすさ

誰にでも使いやすく

進化を続けるコア・テクノロジー

カシオは、斬新な発想を製品として実現させるために、開発の核となる5つのコア・テクノロジーを絶えず進化させています。

開発 Development

カシオの開発姿勢は、0から1を生み出すこと。

お客様の潜在ニーズをとらえる独創的な商品企画力とデザイン力。

それを実現する高水準の技術で、新たな価値を生む製品開発に取り組んでいます。

企画

従来の発想にとらわれず 本質を追求する「0→1」の開発姿勢

カシオは、製品を使う人の立場で発想し、時には長年培ってきた技術的な資産にとらわれず、常に新しい着眼点で企画に取り組んでいます。高速画像処理エンジンにより、思い通りに次々とシャッターが切れるデジタルカメラがその好例。「我が子が自転車に初めて乗れた瞬間」を高速連写カメラで撮り損ねてしまった開発者・西坂信儀の苦い経験から、新しいアイデアが誕生しました。自ら手掛けた高度な連写機能も、いつ何度訪れるか分からないシャッターチャンス確実に撮るには適していないと実感。高速連写で全てをとらえ



いつ訪れるかわからない子供の笑顔



QV事業部 西坂信儀

ようとする今までの考えを改め、「本当に残したい一瞬を誰もが手軽に撮影できるカメラ」という原点に立ち戻って考案したものでした。従来の発想にこだわらない柔軟性と、本当に求められているものが何かを考えること。それがカシオの原動力となっているのです。

デザイン

ライフスタイルの多様性を表現し 持つ人の感性を主張

カシオでは、製品のデザイン表現に「CMF=Color (色)・Material (素材)・Finish (仕上げ)」という手法を採用しています。製品のバリエーションをつくる際に、カラーだけではなく、素材の質感や表面の仕上げなども幅広く用意することで、同じモデルでも多様な表現を可能にする手法です。例えばG-SHOCKでは、プラスチック素材の上に特殊な印刷やメッキ処理を施すことで、実際の金属や天然皮革では難しい新しい感覚のデザイン表現を可能にしています。時計の場合、その手法は針や文字板はもちろんバンドにまで反映され、強烈な個性を放ちます。製品の多様で斬新な表情が、持つ人の自己主張になる。そんな新しい価値の提供を目指しています。



Color (色)

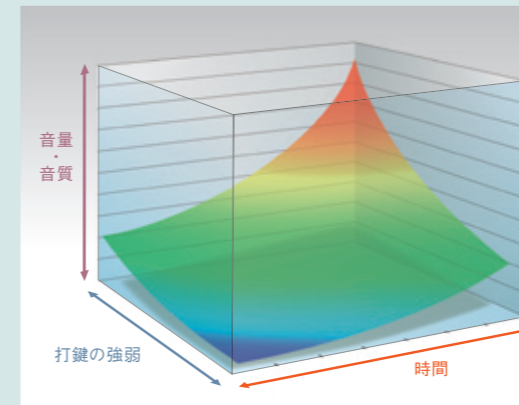
同じモデルでのバリエーション

Material (素材)

Finish (仕上げ)



特殊な表面加工により、皮革製品のような素材感を表現



時間の経過で自然に音色が変化する「AiR音源」

技術

不可能を可能にする技術で 新しい感動を創出

カシオは、コア・テクノロジーの一つであるデジタル技術を駆使し、さまざまな分野で不可能を可能にすることに挑み続けています。例えば電子ピアノでは、グランドピアノのような豊かな音色や響きを追求した「AiR音源」を開発。鍵盤を強く弾けば明るく力強い音になり、弱く弾けば優しく繊細な音を表現できるほか、連続する打鍵の強弱の変化もなめらかに奏でることができます。さらに、筐体や数多くの弦が同時に共鳴するグランドピアノ独特の響きをはじめとする、発音から消音までの時間軸でみた3次元的な音色変化を加えることで、自然で深みのある音を実現しました。これらは、鍵盤一つひとつの音を収録して再生するPCM音源方式だけでは不可能で、グランドピアノ内部で起こる複雑な響きの音色変化を、高速演算処理で瞬時にシミュレーションをすることで実現しています。不可能とわかってきたことを可能にし、次の領域へと進化し続けるカシオのデジタル技術の粋がここにあります。